

THE  
NEWEST  
WHEEL



装着車両のシビックタイプR [FK8]は2台とも、大阪府にあるカスタムショップ、マキナのユーザーカーだ。装着するZR10 KURENAIはプロトモデルで、サイズは8.5Jx18+47。タイヤはミシュランパイロットスポーツ4Sで245/40R18。

# WORK WORK EMOTION ZR10 KURENAI

ワーク 06-6746-2859 <http://www.work-wheels.co.jp>

シリーズ最軽量を誇る  
スーパーGT直系モデルに  
走りの情熱をさらに高める  
KURENAIが追加!

今年ブランドデビュー20周年を迎えたワークエモーション。そんな節目を飾るアニバーサリーアイテムとしてオートサロン2020でデビューしたのが、ワークエモーションZR10だ。

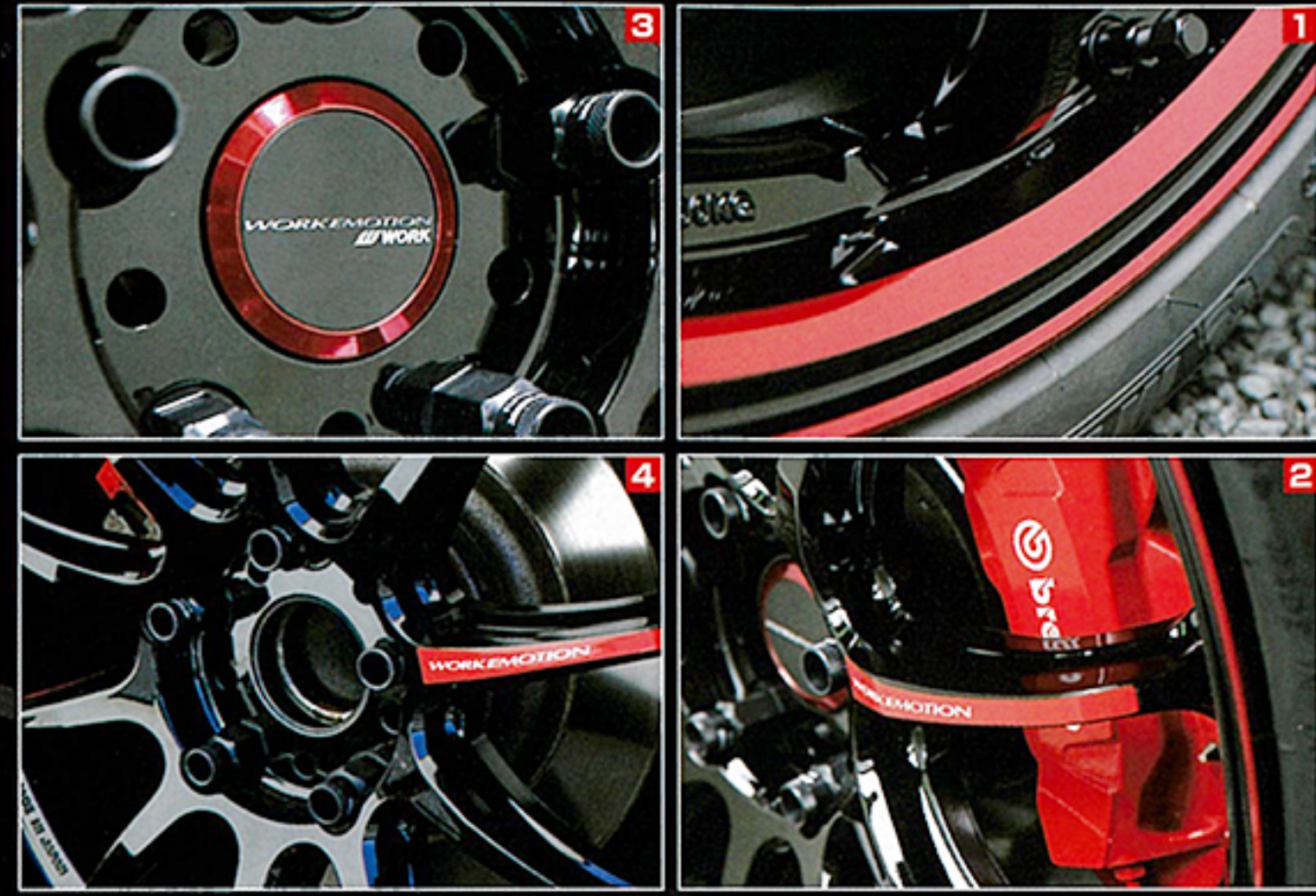
シリーズ初となる10スポークは、ワークがスーパーGTへ供給しているレーシングホイールの血脈を受け継がせて仕上げられた。応力分散に優れたスポーク構成、アウターフランジとディスクの剛性高めるリムとの接続、そして稼いだ落差で足元の深みを強く放ちながら側面部の駄肉もしっかりと削ぎ落とすセンターパット。まさに、機能美に溢れる一本として細部まで研ぎ澄まされたZR10は、高剛性かつ軽量を仕上げを誇り、なんと全サイズにおいて軽さに定評あるT5RやT7Rも凌いだシリーズ

最軽量モデルとなっている。

さて、そんなホットアイテムへ新たに追加されるのが、過去にCRK1WAMIやT7Rでも用意されていた、KURENAIだ。これは単なる新色ではなく、ワークが「スポーティさが極まるブラック×レッドの足元を履きこなして欲しい」と考える車種に向けたサイズへ絞り込んで専用カラーを展開するスペシャルバージョン。履きこなせるのはシビックタイプRやWRX STI、ノートニスモなどへ限定されてしまうが、それゆえに愛車で履きこなせた時の満足度は格段に高まっていく。

なお、重厚な落ち着きの中に躍動感秘める、KURENAIカラーはメインカラーのブラックを塗装後にリムを切削し、クリアレッドを重ねる流れで構築されてきた。上質なメタルテイストも楽しめる

鮮やかな色合いで放つ、洗練されたスポーティ。走りの情熱をワンランク上のものへ高めあげるなら、高剛性かつ軽量のZR10へ注がれた、この美しき躍動感は見逃せない!



1 切削&クリアレッドで引き出された色鮮やかな赤は、フランジ部にメインカラーの黒を残すようにして配色。静止時だけでなく、走行時にも回転する二本のラインで高い躍動感を放っていく。

2 リブを与えたスリムスポークにはディスク面に鋭角なポイントをプラス、大胆に落とし込んだセンターパートとの相乗効果で、コンクリート感を際立たせた。なお、ZR10へ同梱されているレッドのスポーツデカールはブラック×レッドのKURENAIにもマッチング上々だ。

3 センターキャップにはリング部分にクリアレッドをあしらったKURENAI専用カラーをオプション設定。リムと同じ色鮮やかさが好アクセントとなるので、アダルトスポーティに仕上げたらセンターキャップは迷わず投入すべきだ。

4 キャップレス仕様にはドンピシャな超々ジュラルミン採用のロックナットセットがデビュー。高強度を確保しつつ29gという軽さを引き出したローレット貫通タイプで、ロックナットには異形六角形を採用。仕様は21HEX M14xP1.5、60度テーパのブラックアルマイトとなり、1セット3万円。



# THE NEWEST WHEEL



## WORK WORK EMOTION ZR10 KURENAI Matching for CIVIC TYPE R [FK8]

INCH	SIZE	H-P.C.D.	INSET	TAPER	PRICE (without tax)
17	7.0J	4H-100	47	SEMI	¥50,000
		5H-100 5H-114.3			
18	8.5J	5H-114.3	47	MIDDLE	¥56,000
		5H-120	38	MIDDLE	¥62,000
	9.5J	5H-114.3	38	DEEP	¥58,000

※カラー：kurenai (BRM)  
※付属品：エアバルブ、スポーツデカール  
※センターキャップはオプションアイテム



KURENAIのプロトサイズ、8.5J×18+47をノーマルFK8へマッチング。ノーマル車高で無難に履きこなすならこのようにインセット47付近となるが、どうしてもフロント&リヤはツライチには遠いマッチングとなり、足もとの迫りなさが残ってしまうのは否めない。しかし、18インチへのインチダウンによりブレーキシステムとの見た目のバランスが整った上に、タイプRの赤バジとKURENAIカラーの相性はバツグンだ。

# ボディとのバランスや 走りを重視するなら18インチがベスト FK8ホイールマッチング攻略を探る

純正で20インチがマッチングされているシビックタイプR [FK8]だが、スポーツラジアルの充実加減やボディと足元のポリウムバランスを考えれば、インチダウンが現実的だ。実際、今回クローズアップしたワークエモーションZR10 KURENAIでFK8に向けて設定されたサイズは、ローダウンを前提とした8・5J×18+38となっている。

では、FK8のマッチング攻略はどのように考えていけばいいのだろうか。

78〜79ページで紹介している、KURENAIにシロクロするブラック×レッドのアダルトスポーティ、ホワイトに大胆なレッドを配色してマルボロイメージのレーシーと2台のFK8を、ワークエモーションZR10 KURENAIのマッチング車両として用意してくれたマツキナの太田さんに話を聞いてみた。

「まず純正の20インチは、とにかくタイヤ代が高い。また、ボディに対して足元が大きいく感じるだけでなく、スポークから見えるブレーキも貧弱に感じますね。走りにおいても30扁平では少しシビアですから、インチダウンがベストでしょう。そんなわけでインチに関してはボディとのバランスで考えるなら19インチ、タイヤチョイス優先なら18インチ。アダプティブ・ダンパー・システムの関係で車高はノーマルがいいという方だと、インセットは47付近が無難。ダウンサスや車高調を投入して適度にローダウンするならインセット40付近でツライチに仕上げられます。リム幅に関しては狙いのタイヤサイズに応じてチョイスすればいいと思いますが、ストリートでのカッコ良さに特化させるなら10Jも狙っていただけますよ」



こちらは前ページに登場したマツキナのFK8。プリッツ・ダンパー-ZZ-Rを使って落とされた車高も考慮し、KURENAIプロトサイズの8.5J×18+47に、フロント8mm、リヤ6mmのスペーサーを使用。ほどよいツライチ加減と低さで、スポーティさとワイド&ローなスタイル楽しめるマッチングに仕上がった。なお、ZR10 KURENAIの製品版では、FK8に向けた8.5J×18+38が設定されている。

なお、ワークエモーションZR10 KURENAIのリリリースに向け、当初プロトモデルに用意されたのはインセット47。写真を見ても分かるようにノーマル車高で楽に履きこなせるが、マッチングは無難のひとつだ。一方で同じプロトインセットにフロント8mm、リヤ6mmのスペーサーを使用してマッチングした車高調装着車では、スタイリングのワイド&ローが際立つマッチング。そうした部分も踏まえ、FK8に向けて8・5J×18+38が用意されるKURENAIは、しつかりとキメたフットワークとともに履きこなすべきスポーツホイールと言えるだろう。